

重要文化的景観拠点施設

大溝陣屋総門がオープンします

閩文化財課 0251-8559

重要文化的景観「大溝の水辺景観」の重要な構成要素で、市の指定文化財でもある「大溝陣屋総門」の復原工事が完了し、4月1日（月）から重要文化的景観拠点施設「大溝陣屋総門」としてオープンします。

江戸時代に大溝陣屋の正門として建てられた当時の姿をできるだけ再現し、内部は、地域案内の拠点や大溝城などの地域の歴史を紹介する展示室として活用します。多くの皆さんに気軽にお立ち寄りいただき、地域の歴史や生活文化に触れていただくことができる施設になることを目指しています。



大溝藩主だった分部家の家紋が入っている



新たに整備した古式水道

文化財工事の工法を使った復原

復原工事を行う前の大溝陣屋総門は、東西両棟に二階建ての建物が増築されるとともに、入口の位置の変更など大幅な改造が施されていました。

今回の復原工事では、近代の増築部分を除却するとともに、礎石や柱の痕跡等から創建時の姿を推定し、それにより近い建物になるよう修理を行いました。

また、創建時に使われていた古材をできるだけ残すため、腐食している部分だけを新しい材に入れ替える「根継ぎ」と呼ばれる工法が用いられました。



復原工事前の総門



工事中



根継ぎ作業



歴史資料の展示や映像を上映する東部屋



大溝の水辺景観まちづくり協議会スタッフの二人

常駐スタッフがいる西部屋

はじめとする周辺の古代遺跡を紹介する展示や、大溝城築城当時の姿をCGでよみがえらせた再現映像の上映を行います。

地域の拠点として

4月から、大溝の水辺景観まちづくり協議会の運営による「大溝陣屋総門」がオープンします。西部屋は来訪者の案内窓口として、常駐スタッフが地形ジオラマなどを使って地域の歴史や観光情報等を案内します。東部屋では、鴨稻荷山古墳を

大溝陣屋の概要

大溝陣屋総門は、江戸時代に高島市南部におかれた大溝藩の陣屋（藩庁と武家屋敷群からなる区画）の正門で、宝暦5年（1755）に建てられた長屋門形式の建物です。明治時代に個人所有となり、増築や改修を重ねながら住居や商店として利用された後、平成16年度に公有化されました。平成27年に周辺一帯が国の重要文化的景観「大溝の水辺景観」に選定され、大溝陣屋総門はその重要な構成要素に位置付けられました。その後、貴重な文化財建造物でもある建物を地域のシンボルとして活用するための手法の検討が行われ、今回の保存修理が実現しました。